

たま みが

玉磨かざれば光なし



北広島町立大朝中学校
学校だより 5月号
令和3年5月19日(水)

《学校教育目標》 大朝(ふるさと)を愛し、すすんで学び続けるたくましい生徒の育成

新入生歓迎遠足 ⇒ 新入生歓迎レクリエーション ～ 絆深まる！ ～

4月30日(金)、当初予定していた新入生歓迎遠足はコロナウイルス感染拡大状況を鑑み、中止となりましたが、その目的としていた①早い時期に、2・3年生との交流を深めることを通して、1年生に中学校生活に対する安心感を持ってもらう ②全学年(の縦割り[委員会])グループで、お互いに協力し合うことの大切さを実感し、対人関係力を高めていくことの達成に向け、新入生歓迎レクリエーションを5・6時間目に実施しました。

歓迎遠足の中止が決定し、祝日を挟むといった短期間での準備ではありましたが、全校生徒のことを考え、執行部を中心に企画・運営されました。

冒頭、藤田校長のあいさつの後には、全校生徒と教職員全員でのバースディ・リング(非言語で、誕生日順に並ぶ)を行いました。大きな輪ができた後、1月から順に氏名と誕生日を言っていました。同じ誕生日の人が複数人いたり、月によっては3人しかいなかったり・・・と、新たな発見や気づきがあったようです。歓迎レクリエーション当日、部活動終了後の1年生に「レクリエーションは、どうでしたか?」と尋ねると、「面白かった!」「楽しかった!!」という声の間髪入れず、笑顔とともに返ってきました。学年の枠を超えて、絆が深まったのではないのでしょうか。



執行部による運営



校長先生あいさつ



久都内先生による生伴奏



ジェスチャー伝言ゲーム ⇒



どのように伝わったのでしょうか ⇒



答えが合って大喜び!

N I E実践指定校としての取組 ～ 情報活用能力の育成に向けて ～



N I E (Newspaper in Education＝「エヌ・アイ・イー」と読みます)は、学校などで新聞を教材として活用する活動です。

学習指導要領には、小・中・高の総則に情報活用能力の育成のため、新聞などの活用を図ることが明記されているところです。本校では、新聞に親しむところから始め、情報活用能力の育成はもとより、思考力・判断力・表現力を育成する一助としたいと考えています。

新年度スタートしてから、家庭科室前の掲示板には、新聞の切り抜きを掲示しています。切り抜きだけでなく、新聞に記述されている地名や世界地図（白地図）を載せ、実際にどの位置にある国なのかといったクイズもあり、興味津々で読んでいる生徒もいます。5月6日（木）からは2階の廊下に中国新聞をはじめ6社の新聞を置いてあります。

経済協力開発機構（OECD）の「生徒の学習到達度調査（PISA）2018年」において、子どもたちの総合読解力と新聞の閲読頻度に相関関係があることが分かっています。

新聞を通して、社会や経済、国や地域のこともっと知り、新聞記事を活用した授業を引き続き展開していきたいと考えています。



生徒総会 ～ 生徒会スローガン ^{ちょうこく} 超克 Get over hurdle ～

5月7日（金）6時間目に生徒総会を行いました。事前に各学級で生徒会資料を読み込み、分からないこと、もっと聞いてみたいこと等を出し合って、この総会に臨んでいます。生徒会スローガンの説明後、生徒会本部及び各委員会が、今年度の活動計画（案）を提案しました。各学年からの積極的な質疑に対し、説明者は丁寧に応え、拍手多数で承認を得ていました。

生徒会は執行部を中心としつつ、会員である生徒一人一人の参画によって成り立っています。

参加ではなく、参画というところがポイントです。

「超克」とは、困難を乗り越えるという意味で、昨年、コロナの影響で学校全体が暗い雰囲気になっていたけど、全校でこれを乗り越えて学校全体を明るい雰囲気にしたいという思いが込められている。

「Get over hurdle」は壁を乗り越える、押し勝つという意味で、今、目の前にあるコロナや、あいさつ、返事など（が十分にできていないといった学校としての）課題の壁を全校で意識して行い、全校でこの壁を押し返したいという思いが込められている。



提案に対して質問



立候補による議長・副議長選出



生徒会スローガン説明